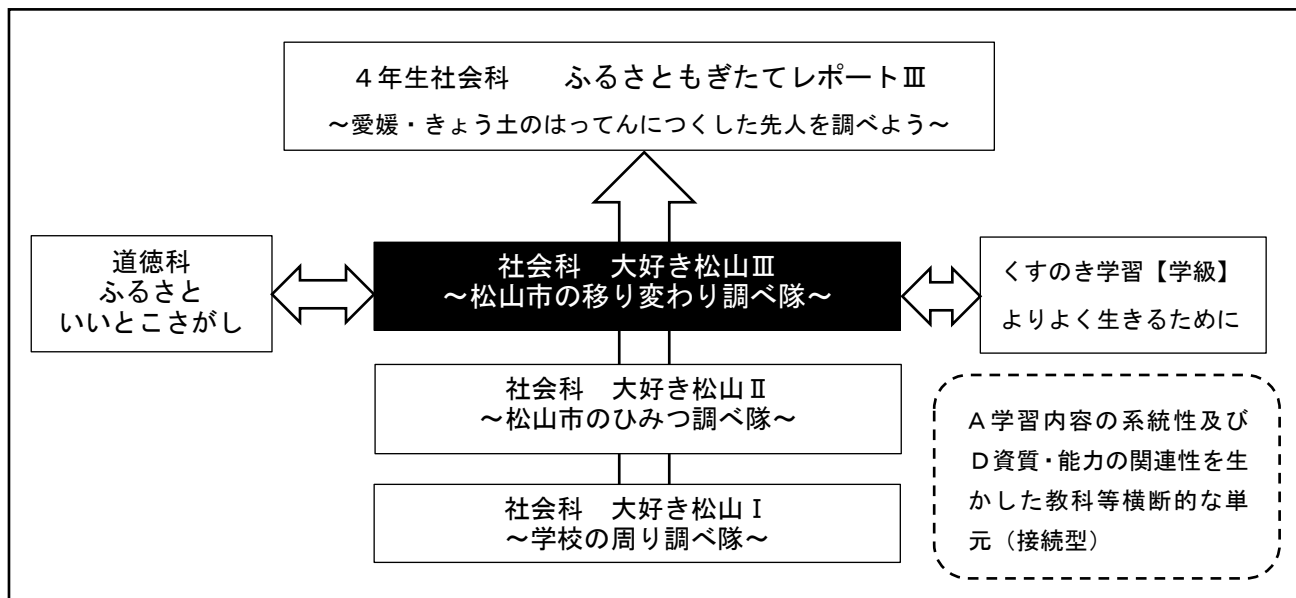


第3学年

「大好き松山Ⅲ～松山市の移り変わり調べ隊～」社会科（+くすのき学習・道徳科）

【単元全体構想について】



【単元構想について】

本単元は、A「学習内容の系統性」及びD「資質・能力の関連性」を生かした教科等横断的な単元である。3学期に入り、子どもたちは進級を意識しながら、学校生活を送っている。一人一人が進級する自分の具体的なイメージを持ち、4年生でも生き生きと活躍しようとする姿が見られる。一方、社会科では、前単元「くらし調査隊Ⅲ」において、消防にかかわる人々によって自分の生活が火事から安全に守られているというだけではなく、地域社会の一員として、自分たちも火事を防ぐためにできることを考えてきた。子どもたちは、社会的事象の見方・考え方を働かせて、自分の社会へのかかわり方を選択・判断し、社会に一步踏み出そうとする経験を重ねている。

このように考えたとき、くすのき学習で進級を控えた今の自分がすべきことは何か、社会科で、社会に対して自分がどのようにかかわっていくのかを考えることは、対象に対して自分のよりよいかかわり方を考えるという点において、目指す方向は同じである。そこで、自分の未来に明るい希望を持ち、自ら積極的にかかわっていこうとする意識を高めたいと願い、本単元を構想した。

本単元（社会科）は、主として「歴史と人々の生活」に区分される内容であり、交通や人口などを視点として松山市の移り変わりについて調べ、それを踏まえて松山市のよりよい発展について考える学習を行う。松山市は、明治22年に市制を施行以来、政治・経済の中心都市として成長してきた。昭和20年、市街地の大部分を戦災により焼失したが、今日では総合的な都市機能を備え、平成12年には中核市へと移行し、平成17年には北条市・中島町と合併し四国初の50万都市となった。その一方で、人口の減少や少子高齢化など様々な課題も抱えている。

こうした課題を解決しようと努力している人々の取組や思いを踏まえ、未来の松山市に自分がどのようにかかわっていくのか選択・判断することで、未来の松山市を担うのは自分たちであることに気づき、社会に一步踏み出そうとするきっかけとしたい。このことが、松山市に対する誇りと愛情、そして市民としての自覚を養うことにつながるであろう。これまで働かせてきた社会的事象の見方・考え方をさらに働かせ、社会に積極的にかかわろうとする意識を高めるのに、本単元は適していると考えられる。

【単元（社会科）のねらい】

- 市の人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解する。
- 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、それらを相互に関連付けたり、市の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして、市や人々の様子の変化を考え、適切に表現する。
- 学習したことを基に、これからの市の発展について考える。

【単元の展開】（社会科 1 4 時間）

	場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準	時間
	出会い	<p>昔の松山市の様子は、どうなっていたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昔と今の松山市の様子を比較し、学習問題を作り、予想を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 松山市の様子の変遷について問題意識を高め、学習問題を作り、予想をすることができている。</li> </ul>	3
	追究	<p>松山市は、昔から今まで、いつからどのように変わってきたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 予想を基に学習計画を立てる。</li> <li>○ 追究した内容を、個や小集団で話し合い、まとめる。</li> <li>○ 学習問題の答えについて、自分の考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 予想を話し合うことで、自分の課題をはっきりさせ、追究活動を行うことができている。</li> <li>● 資料や友達の発表から、学習問題に対する自分の考えをまとめることができている。</li> </ul>	7
	振り返り	<p>これからの松山市はどうなっていくのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 松山市が抱える課題と、それに向き合っている行政の取組を踏まえて、これからの松山市の在り方と自分とのかかわりについて考える。</li> <li>○ 市役所の方に手紙を書くことで、これまでの学習のまとめとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● これからの松山市の在り方と、自分とのかかわりについて考え、未来の松山市は自分たちがつくってきたいという思いを持っている。</li> </ul>	4 本時 その 3

【単元の実際】

（第 1 時）出会い：昔の松山市と今の松山市の様子を比べる。

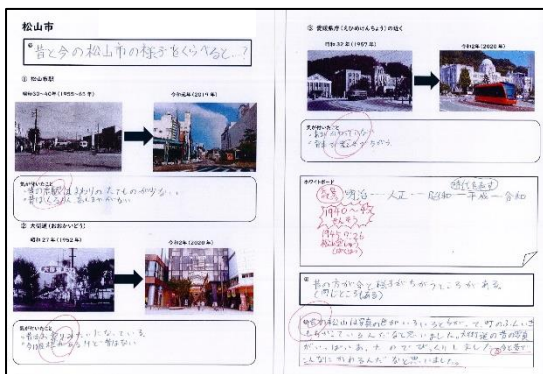


図 1 1 時のワークシート

これまで社会科で学習してきた内容を振り返る中で、「市の様子」で扱った五つの地区について、「附属小学校が近いのはどの地区かな?」「空港があったのはどの地区かな?」などと話しながら、学習したことを思い出させた。そして、そのときに扱った三つの場所（松山市駅・大街道・県庁付近）の現在の写真を見せ、「今より前、この三つの場所はどんなになっていたのかな?」と問い掛けた。

「建物が少ない」「高い建物がない」と違いに目を向けた。 「県庁は変わっていない」「電車は今も昔も走っている」

と同じところに目を向けたりする姿が見られた。そして、市の変化について驚きを持って捉え、今と昔は様子が違うことに気付いた（図 1）。

(第2時) 出会い：資料を基に、学習問題を設定する。

前に活用した松山市全域の地図を使い、自分がどの地区に住んでいるか確認した。その後、「今の松山市と昔の松山市の広さは、同じなのかな？違うのかな？」と問い掛け、旧松山市の範囲と現在と比較することで、昔（昭和15年ころ）の松山市の範囲は、今よりかなり狭いことに気付いた。ワークシートに、合併した町村に色を塗ることで、松山市が合併を繰り返して広くなり、今の松山市になったことに気付いた。

そして、前時の学習内容も合わせて、自分が疑問に思っていること、これから調べようと思っていることを短冊に書き、仲間分けをした。「昔の松山の様子や生活は、どんな感じだったの？」「昔と今

の松山は、どう違うの？」「なぜ松山が合併して大きくなったの？」という課題意識を基に、「松山市は、昔から今までいつから、どうやってかわってきたの？」という学習問題を設定した(図2)。

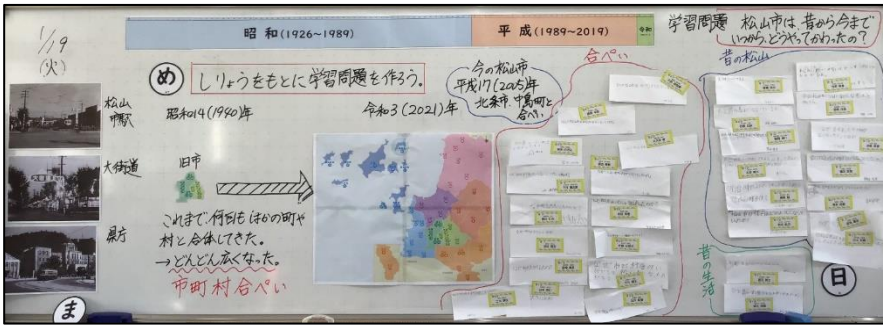


図2 2時の板書

(第3時) 出会い：学習問題の予想をして、学習計画を立てる。

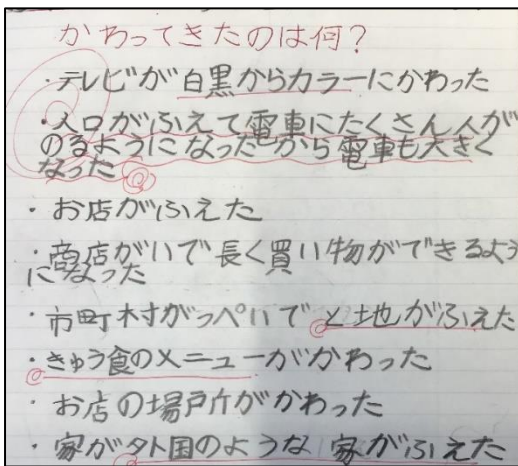


図3 予想

前時の社会科日記(振り返り)を紹介し、本時は松山市の「何がどうやってかわってきたのか」について予想することを確認した。「土地が増えたから、人が増えた」「人が増えたから、電車の線路が長くなった」「建物が大きくなった」など予想を出し合い、話し合うことを通して、これからの学習計画を立てた(図3・4)。

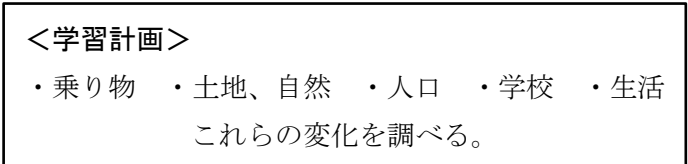


図4 学習計画

(第4～7時) 追究：学習計画を基に、課題を追究する。

学習計画に基づいて、子どもたちは意欲的に追究を始めた。追究を始める前に、これまで大事にしてきた「比べて考える」「つなげて考える」を確認した後、新たに「年表を使ってまとめる」を指導した。個人で追究した後、同じ課題の子どもが自然と集まってグループを作り、小集団による追究となり、そのグループでまとめを行った(図5・6)。なお、各種統計資料や地図などは、こちらが再編集し、必要に応じて提示した。追究のときは、「松山市の人口はどう変わってきたの？(時間や時期の経過)」「飛行機で行ける場所が増えると、空港を使う人はどうなったの？(事象や人々の相互関係)」など、子どもたちが見方・考え方を働かせることができるような声掛けを行った。土地利用と人口の変化や、滑走路の長さや行先、路面電車の駅数や路線の増加と人々の暮らしなどを、比べ、つなげて考え、表現する姿が見られた。

また、愛媛県歴史文化博物館から借りた昔の道具セットを提示し、昔の教科書や弁当箱、黒電話などに触れる機会を持った(図7)。

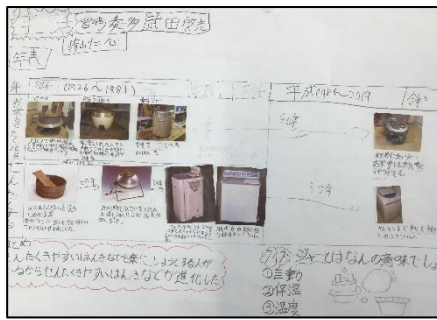
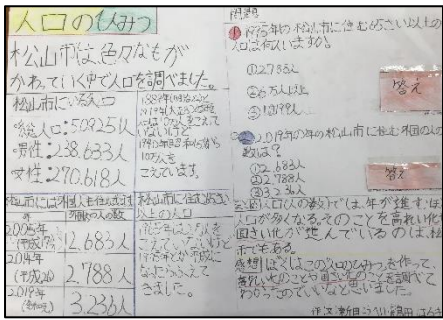


図5・6 追跡の成果物

図7 昔の道具に触れる

(第8・9時) 追跡：友達の発表を聞き、年表にまとめる。

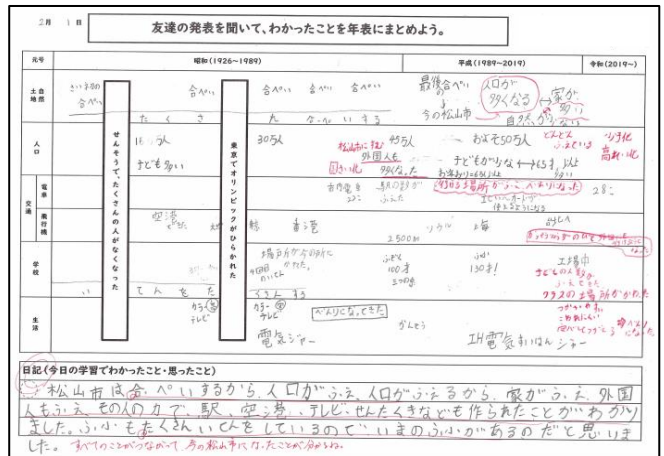
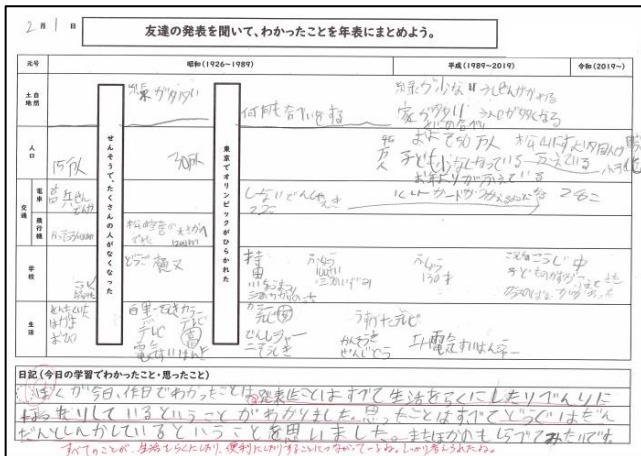


図8 子どもがまとめた年表

他のグループの発表を聞き、分かったことを年表にまとめさせた(図8)。教師は前で大きな年表にまとめ、子どもがまとめるときの参考になるようにした。社会科日記から、以下の内容が読み取れた。社会的事象の見方・考え方を働かせて、松山市の移り変わりを捉えていると言える。

- ・それぞれの事象と人々の相互関係を考えて捉えたり、総合して考えたりしている。
- ・昔の人々の思いや願いが今につながり、それが続くだろうと考えている。

(第10時) 振り返り：年表を基に話し合い、学習問題の答えを考える。

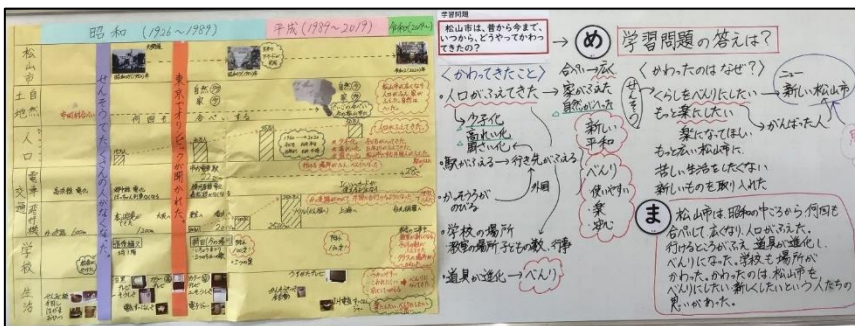


図9 第10時の板書

年表を見て、変わってきたことを発表した後、なぜ松山市は変わってきたのか、その理由を考えさせた。子どもたちは、年表から松山市の変わってきたことを捉え、それらに関連付けて話し合い、「新しい松山市になった」と表現した。そして変わってきた理由を、「暮らしを便利にしたい、楽にしたい」「苦しい生活をしたくない」「新しいものを取り入れたい」という、道具や交通網の広がりや進化に込められた思いを根拠にして発表することができた。

話し合いを通して、「松山市は、昭和の中頃から何回も合併して広くなり、人口が増えた。行けるところが増え、道具が進化し、便利になった。学校も場所が変わった。変わったのは、松山市を便利にしたい、新しくしたいという人たちの思いがあった」とまとめた。社会科日記には、大事だと思ったこ

とに学習内容（「人々の思い」、学び方（「つなげて考える」など）の両方が書かれていた。また、松山市の抱える課題に対して「難しい問題だ」と捉えている子どももいた（図10~12）。松山市が抱える課題に対して、関心を持っていることが分かる。

わたしが学習して、一番大事だと思っことは、新しくしたい、使いやすくしたいなどの気持ちだと思ひました。なぜなら、そうゆう気持ちがなかったら、新しくならないし、使いやすくもならないからです。

私はこの学習をして、つなげて考えるということも大事だと思ひました。なぜならつなげて考えると、どんな答えもわかり、たくさんのがあがってくるから、つなげて考えることは大事だと思ひました。

⑩私たちがくらしはじ人じんか  
わって来たんだなと思ひまし  
た。しかし、人口かふえるは  
うれ、自然がへっているので  
自然をふやしたのが、人口が  
ふえてしまうという事で、  
まずかしい問題なのだと思ひ  
ました。学習のわりかたでは、  
発表されたことをまとめると、  
全部がつながっているのな  
と思ひました。  
おもしろい問題ですね、両方がうまくいく方法が  
あるんか。

図10~12 第10時の社会科日記

（第11時）出会い：新たな問いを持つ。

「年表の続きはどうなっていくのかな」と問い掛け、現段階での考えを交流した後、新たな学習問題「未来の松山市はどうなっていくのかな」を設定した。その際、「これまで松山市はどう変わってきたのか」という「学んだことを生かして考える」ことが大切であることを指導した。また、あまりに先の未来だと子どもの発想が自由になりすぎるので、およそ10年後（子どもたちが二十歳くらい）とした。

おやかたさまのお話をよく聞いて、松山市の未来を予想して、考えることがとても楽しみたいです。そしてそのそのどうも、何かで表したいと思ひました。そして十年後の松山市を十年後の私で見みるのがたのしみです。

図13 第11時の社会科日記

未来の松山市について予想したことを交流した後、「これから『柱』として、未来の松山市がどうなっていくのか考えていきましょう」と話し、子どもたちの興味・関心が高いアニメと関連させた。「お館様は先生？」と質問があったので、「先生も『柱』の一人だよ。お館様は明日いらっしゃるよ。お話を聞いてみようか。」と話し、次時への期待を持たせた（図13）。中には、「未来の松山を少しでもよくしたい」と考えている子どももおり、社会に参画しようとする意識が高まっている様子もうかがうことができた。

（第12時）追究：市役所の方の話を聞く。



図14 第12時の様子

市役所の方に、松山市が抱えている課題（人口減少・少子高齢化）と、松山市が目指すまちづくりの方向性についてお話していただいた。人口減少や少子高齢化のどこが課題なのか、資料を基に分かりやすく話してもらったが、やはり子どもたちには難しかったようだ。

子どもたちはお話を聞いて、「松山を支えたい、役に立ちたい」「松山市のためにがんばっている人がいてすごい」という思いを持ったことが分かった。松山市のまちづくりに実際にかかわっている人の話を聞いたからこそその思いが生まれていると言える。

(第13時) 振り返り：未来の松山市について考える。



図15 第13時の様子

「未来の松山市はどうなっていくのか」について話し合った後、そのために「自分にできること」を選択・判断させた。子どもたちは「自然を大切にする」「水を大切に使う、ごみを減らす」「松山市を支える仕事をしたい」など、今の自分にできることと、未来の自分にできることを考えた。そして、両者には「松山市をよくしていきたいという思い」「未来の松山市のために協力しようとする気持ち」が共通していることに気付いた。また、前回お話を聞いた市役所の方にオンラインで参加していただき、子どもたちが話し合ったことに対して価値付けをしてもらった(図15)。

本時の振り返りのテーマを「未来の松山市とわたし」として、社会科日記を書かせた。本時の学びを踏まえて、松山市と自分とのかかわりを表現している姿が見られた(図16~18)。

未来の松山市とわたしは一つながり  
 っていて、わたしたちは、いっ  
 しょに松山市をささえていけばい  
 いかな仲間と今いるようにな  
 り、松山市の未来は、明るく  
 松山市の人と仲良くでき  
 たすけあって、水を大切に、物  
 を大切に、世界中をたのし  
 みにしたいなと思ってきました。

できることの中、今できること  
 などがあ。たのび、それをこれ  
 からや。ていきたいなと思いま  
 した。未来は何が出来るかあか  
 らないけど、今より未来をも  
 とよくしていきみたいです。今  
 できることを未来でもや、てい  
 みたいです。

わたしはしょうらいのゆめが踏むくな  
 ので、そのときは松山市にたくさん外国人を  
 たくさんあんんしたりして、たくさんい  
 ところを知ってもらいたいです。

図16~18 第13時の振り返り

(第14時) 振り返り：市役所の方にお礼の手紙を書く。

お食事をえんじてもらってくださり、  
 本当にありがとうございました。  
 さんばが つといえがお店が  
 しあわせじょうかんといふと思っ  
 てるので、ぼくも人がつといえがお店  
 があるあわじょうかんといふために  
 力を店員さんなどでみんなに  
 しらせるなど、今できることをやりたい  
 です。これからもうい  
 ので、お礼の手紙をつけて  
 ください。

このまえは、おさがし、おさがし、おさがし  
 のために、2回、おさがし、おさがし、おさがし  
 くれてありがとうございました。  
 ぼくは、さんばを助けて思っ  
 たことは、ぼくの、しょうらいのゆめは、い  
 たから松山市に、かんけいすること、い  
 と思っかけて、すい、の、仕事、が、松  
 山市に、かんけいすること、と、し、ま  
 した。また、もし、えんじ、たら、よろ  
 しく、お、か、い、し、ま、す。

12時・13時とお世話になった市役所の方にお礼の手紙を書いた。手紙の内容からは、感謝の気持ちとともに、学んだことを生かして未来の松山市に自分からかかわっていかこうとする姿が見られた(図19・20)。

図19・20 市役所の方へのお礼の手紙

【単元の成果と課題及び次年度の実施に向けて】

- それぞれの学習過程において、「社会的事象の見方・考え方」を働かせることができるような「問い」を意識して指導したことで、子どもたちが学習材や他者、自分自身とよりよくつながる問題解決的な学習過程を充実させることができた。
- 松山市役所の方とかかわることで、子どもたちは未来の松山市の在り方を自分ごととして捉え、そこに自分がどうかかわっていくのか選択・判断して自分の考えを表現し、深めることができた。
- 人口減少や少子高齢化などの課題を、3年生に理解させることが非常に難しい。工夫が必要である。
- これまでの学びと、未来の松山市に対する自分のかかわり方がうまくつながらなかった。市の変遷の原動力である人々の思いが「今、叶っているのか？それとも叶っていないのか？」というテーマで選択・判断させることで、これまでの学びを踏まえ、「昔の人たちの思いを受け継いで、これから松山市をよりよくしていくのは自分たちだ」という気持ちを更に高めることができたのではないかな。
- ☆ 3年生社会科学習の集大成として本単元を捉え、単元構成を工夫していく。